



# M10型重量物品棚

## 組立・取扱説明書

このたびは、TRUSCO・スチール棚をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品は、棚板の増設・交換・補充が簡単にできます。また部品についても、ネジレや横ブレ等が生じない高精度を実現しています。塗装は、焼付塗装をほどこし、サビ・キズ等に強く、汚れも目立ちません。オフィス・工場倉庫・店舗で、末長くご使用いただけます。

**M10型の棚板1段当りの耐荷重は、均等で1000kg、1台当りの最大荷重は5000kgです。**

※「均等の耐荷重」とは、棚板の表面に均一に荷重をかけた場合に、耐えられる重さの合計量をいいます。

### 安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や、他の人への危害や財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただく内容を次の要領で説明しています。



#### 警告

誤った使い方をすると「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を説明しています。

■耐荷重以上の荷物を置かない  
棚が傾いたり、棚板が曲がったりして危険です。同梱の「警告表示シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。

均等荷重1000kg/段当り

■足をかけたり、よじのぼったりしない  
転倒したり、棚板が外れたり、足を滑らせてけがをするおそれがあります。同梱の「警告シール」を必ず貼付し、表示に従ってください。



棚板足掛厳禁

■不安定な場所に置かない  
棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。



#### 注意

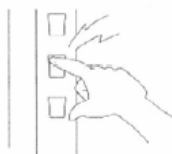
誤った使い方をすると「傷害または財産への損害が発生する可能性が想定される」内容を説明しています。

■最上段棚板に荷物を置かない  
棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■組立はウラ面の手順に従う  
手順を誤ると、組立中に部品が外れたりして、けがをするおそれがあります。

■解体移設するときは、組立手順に逆行  
部品の取外し手順を誤ると、部品の落下・転倒のおそれがあります。

■棚板のつなぎ目など、隙間に指を入れない  
切断面や取付穴のカドなどで、けがをするおそれがあります



■棚が変形したままで使用しない  
棚が倒れたり、荷物が落下して、けがをするおそれがあります。

■支柱の切断など、改造をしない  
棚が不安定になり危険です。また切断面のバリなどで、けがをするおそれがあります。

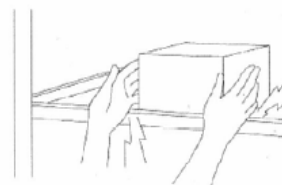
■危険物(薬品・壊れ物等)を置かない  
破損してけがをしたり、健康を害するおそれがあります。

■棚によりかからない  
棚が傾いて荷物が落下したり、棚が倒れて、けがをするおそれがあります。

■屋外や水のかかる場所に設置しない。  
また、ぬれたものを置かない  
棚が腐食し、倒壊するおそれがあります。

■荷物は静かに丁寧に載せる  
乱暴に載せると棚板のたわみやはね上がり、荷物の落下で、けがをするおそれがあります。

■棚板をウラ向けにして使用しない  
指などを折り返し部に引っかけ、けがをするおそれがあります。



●本製品を第三者に譲渡、貸し出しする場合、必ずこの説明書を添えてお渡してください。

※この取扱説明書は、紛失しないよう、大切に保管してください。



この取扱説明書は地球環境保護のため再生紙を利用しています。

# 組み立てる前に

梱包内容がすべて揃っているか、ご確認ください。  
 ※万一不足の部品があった場合は、すぐに購入先へお知らせください。  
 ※「警告表示シール」を同梱しています。棚板前面に貼付してください。  
 ※枕木を2本ご用意ください。組立が容易になり、棚や床への傷つきを軽減します。  
 ※組み立て時は、必ず軍手などの保護具を着用してください。

均等荷重 1000kg/段当り

棚板足掛厳禁

天地4段仕様



## ●天地4段(棚奥行620D)の場合

**梱包内容** 段数が増設した場合、棚板・中棚受けの数が増減します。又、棚板枚数は、棚奥行により異なります。

	品名	基本型	連結型
①	支柱	4	2
②	棚板	16	16
③	ビーム	4	4
④	天棚受	2	2
⑤	中棚受	6	6
⑥	横材	6	3
⑦	斜材	4	2
⑧	ベースプレート	4	2
⑨	支柱カバー	2	1
	六角ボルト(M10×20)	56	36
	アンカーボルト(M10×50)	4	2
	六角ボルト(M6×12)	16	16
	ライナー	8	4

### ② 棚板

棚板は、奥行に応じて、所定の棚板フレーム枚数を組み合わせ、M6×12ボルト、ナットで干鳥に固定します。

奥行	棚板フレーム枚数
620mm	4枚
760mm	5枚
900mm	6枚

### ⑥ 横材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。

### ⑦ 斜材

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。



⑨ 支柱カバー

④ 天棚受

① 支柱

棚高さの調整は50mmごとにできます。増設時には支柱を共有することができます。

⑧ 中棚受

ワンタッチで棚高さの調整ができます。

③ ビーム

M10×20ボルト、ナットにて支柱に固定します。

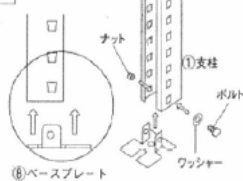
⑧ ベースプレート

アンカーボルト(M10×50)付です。

# 組み立てかた

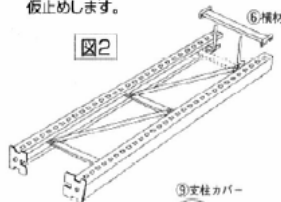
- ① ベースプレート⑧を支柱①の底部にはめ込みM10六角ボルト(B.N.W)で仮止めします。(2ヶ所)  
 ※支柱の上部と底部を逆にならないように注意してください。(図1)  
 ※支柱角孔の狭くなっている方が底部です。

図1



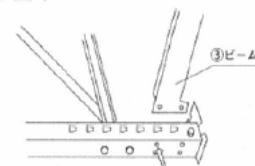
- ② 次に支柱2本を床に置き、横材⑥を3本、所定の支柱の丸孔に取り付けM10六角ボルト(B.N.W)で仮止めします。(図2)  
 ※H1200、H1500は横材2本です。  
 ※この時、斜材⑦を横材⑥の孔位置に取り付けM10六角ボルト(B.N.W)で仮止めします。

図2



- ③ そのフレームを覆かしたまま、ビーム③4本を支柱の孔位置に取り付けます。  
 ※ビームの向きを逆にならないように注意してください。(図3)

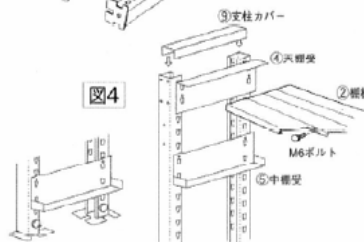
図3



そのままフレームを起こし、反対側のビームにもフレームを取付ます。

- ④ フレームの組立が完了後、支柱の上部2つの角孔に天棚受をはめ込み、中棚受を希望する段ピッチになるようにはめ込みます。(図4)  
 最下段の中棚受は、下から3つ目と4つ目の孔にはめ込みます。  
 この時に仮止め箇所のボルトナットを全て締め固定します。

図4



- ⑤ 棚板②を棚受の上に並べ、棚板同士をM6六角ボルト(B,N)で左右干鳥に固定します。  
 ※天棚受④に棚板②をのせた場合、必ず支柱カバー⑨を図4の通り支柱にかぶせてください。

- ⑥ 最後にアンカーボルトを打込みます。

商品改良のため、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。  
 この取扱説明書は地球環境保護のため、再生紙を使用しています。

販売元 **トラスコ中山株式会社**  
 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町1丁目34番15号

E-mail: [techno.center@trusco.co.jp](mailto:techno.center@trusco.co.jp)  
 お客様窓口 TEL 0120-509-849  
 テクニカルセンター FAX 0120-509-839